

**10~12月期の業況は改善**  
**【特別調査】 - 「2022年(令和4年)の経営見通し」**

**【調査要領】**  
 調査時点：2021年12月上旬  
 調査対象：西兵庫信用金庫お取引先103社  
 調査方法：調査票を用いた面接による聞き取り調査  
 調査企業数：103社  
 調査票回収：103社  
 調査対象地域：西播磨地域（宍粟市、相生市、赤穂市、たつの市、揖保郡、赤穂郡、佐用郡）

分析方法：D.I. (デフュージョン・インデックス)による分析  
 景気の方角感を判断するために使う指数。各質問項目で、「良い」と答えた割合から、「悪い」と答えた割合を引いて算出する。

回答企業の業種別内訳

業種	回答企業数
製造業	32
卸売業	11
小売業	17
サービス業	19
建設業	19
不動産業	5
総計	103

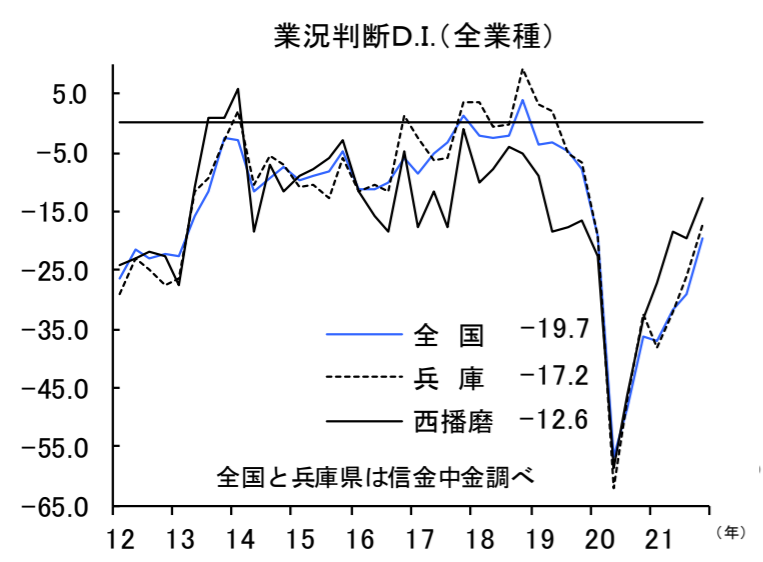
例) 

	良い	普通	悪い	合計
回答数	10	5	5	20

  
 (良い)50%-(悪い)25%=(D.I.)25

**全業種総合**

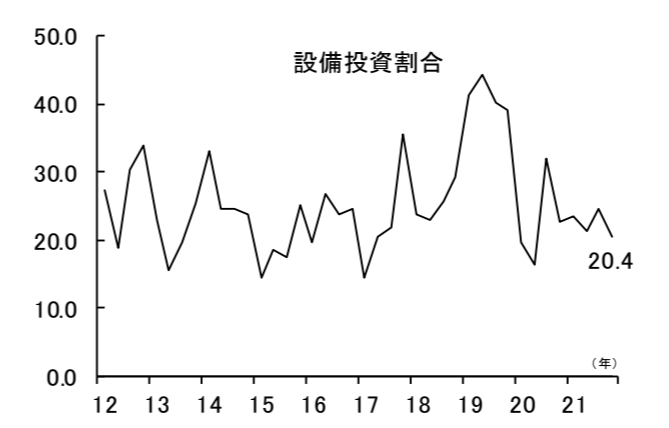
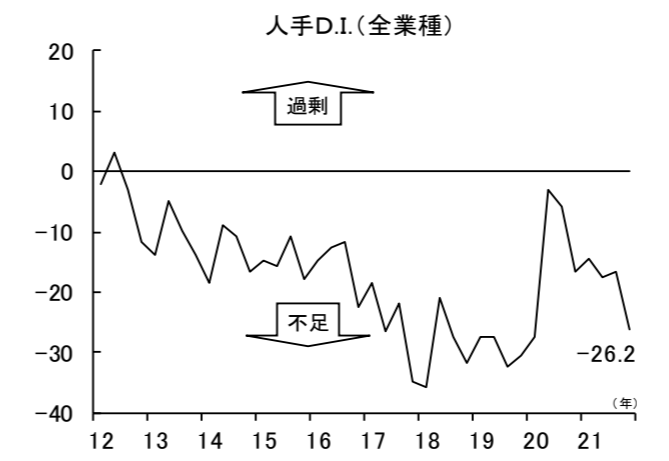
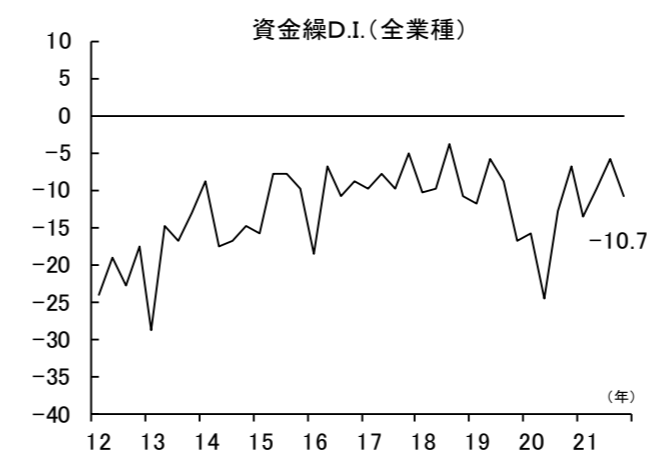
~景況感は低下~  
 21年10~12月期(今期)の業況判断D.I.は△12.6と、前期比6.8ポイント上昇した。前期に比べ業況が「悪い」と回答した企業が2.0ポイント上昇したものの、「良い」と回答した企業が8.8ポイント上昇したことによる。前年同期比の売上額判断D.I.は△11.7と前期比5.9ポイント低下し、同収益判断D.I.は△22.3と前期比9.7ポイント低下した。  
 業種別の業況判断D.I.は、製造業、卸売業、不動産業が改善した一方、サービス業、建設業は低下し、小売業は横ばいとなった。  
 全国の業況判断D.I.は△19.7と前期比9.4ポイント改善、兵庫県では△17.2と8.7ポイント改善した。



【業種別天気図】 過去4四半期の業況判断D.I.を平均して判定

時期	2021年7~9月	2021年10~12月	2022年1~3月(見通し)
総合	☔	☁	☔
製造業	☔	☁	☁
卸売業	☔	☁	☁
小売業	☔	☔	☔
サービス業	☔	☔	☔
建設業	☔	☔	☔
不動産業	☁	☁	☁

天気図の凡例：快晴、晴れ、晴れ時々曇、うす曇、曇、雨、大雨。好調← →低調



~販売価格判断D.I.は上昇・仕入価格判断D.I.は上昇~  
 販売価格判断D.I.は15.5と前期比4.8ポイント上昇した。仕入価格判断D.I.は46.6と前期比6.8ポイント上昇した。

~資金繰り判断D.I.は低下~  
 資金繰り判断D.I.は△10.7と、前期比4.9ポイント低下した。業種別では、製造業が前期比9.4ポイント、卸売業が同9.1ポイント改善した。一方、小売業が同11.8ポイント、サービス業が同10.5ポイント、建設業が同21.1ポイント、不動産業が同20.0ポイント低下した。

~人手過不足判断D.I.は、人手「不足」感が上昇した~  
 雇用面では、人手過不足判断D.I.が△26.2(マイナスは人手「不足」超)と前期比9.7ポイント低下した。残業時間判断D.I.は△2.9と、前期比1.0ポイント上昇した。残業時間が「減少」したとする企業の割合の上昇が、「減少」したとする企業の割合の上昇を上回ったことによる。

~設備投資実施企業割合は低下~  
 設備投資実施企業割合(不動産業を除く企業のうち設備投資を実施した企業の割合)は20.4%と、前期比4.1ポイント低下した。

~来期の景況感は今期実績比低下の見通し~  
 来期の予想業況判断D.I.は△21.4と今期実績比8.8ポイント低下を見込んでいる。  
 業種別の予想業況判断D.I.は、卸売業が今期実績比9.1ポイント、サービス業が同5.3ポイント改善する見通し。一方、製造業が今期実績比18.8ポイント、小売業が同11.8ポイント、建設業が同5.3ポイント、不動産業が同40.0ポイント低下する見通しである。

＜経営上の問題点＞  
 経営上の問題点としては、「売上の停滞・減少」が41%、「人手不足」が31%、「原材料高」が29%と多く、その他では「利幅の縮小」が19%、「人件費の増加」が16%となっている。

経営上の問題点

順位	全業種	割合
1位	売上の停滞・減少	41%
2位	人手不足	31%
3位	原材料高	29%
4位	利幅の縮小	19%
5位	人件費の増加	16%

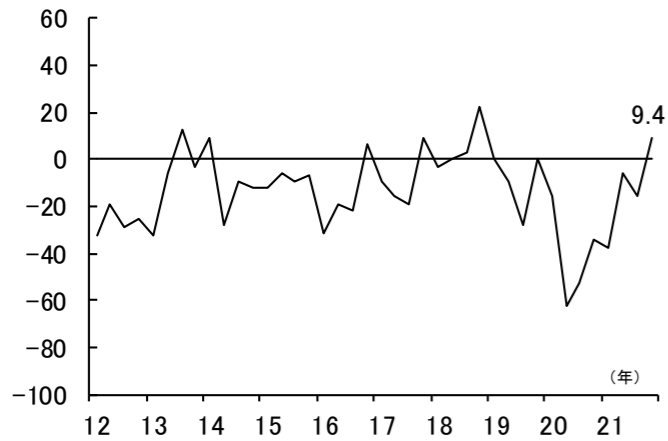
＜当面の重点経営施策＞  
 当面の重点経営施策としては、「経費を節減する」が41%、「人材を確保する」が41%、「販路を広げる」が30%と多く、その他では「情報力を強化する」が13%、「宣伝・広告を強化する」が11%、「機械化を推進する」が10%となっている。

当面の重点経営施策

順位	全業種	割合
1位	経費を節減する	41%
1位	人材を確保する	41%
3位	販路を広げる	30%
4位	情報力を強化する	13%
5位	宣伝・広告を強化する	11%
6位	機械化を推進する	10%

## 製造業

業況判断D.I.(製造業)



### ～製造業の景況感は改善～

今期の業況判断 D.I.は 9.4 と、前期比 25.0 ポイント改善した。

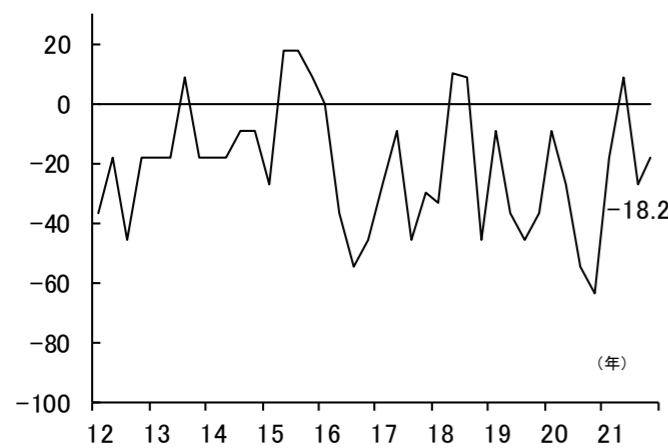
前年同期比売上額判断 D.I.は 15.6 と前期比 25.0 ポイント改善した。同収益判断 D.I.は 3.1 と前期比 25.0 ポイント改善した。

設備投資実施企業割合は 21.9%と、前期比 6.2 ポイント低下した。資金繰り判断 D.I.は 3.1 と、前期比 9.4 ポイント改善した。人手過不足判断 D.I.は、 $\Delta 40.6$  と前期比 25.0 ポイント低下した。

来期の予想業況判断 D.I.は $\Delta 9.4$  と今期実績比 18.8 ポイントの低下を見込んでいる。

## 卸売業

業況判断D.I.(卸売業)



### ～卸売業の景況感は改善～

今期の業況判断 D.I.は $\Delta 18.2$  と、前期比 9.1 ポイント改善した。

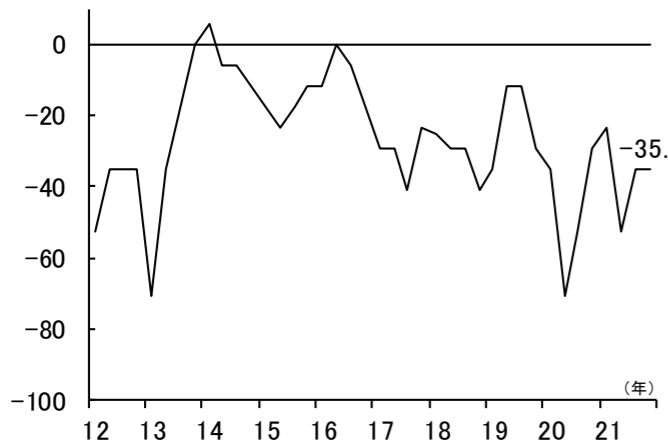
前年同期比売上額判断 D.I.は $\Delta 18.2$  と前期比 36.4 ポイント低下した。また、同収益判断 D.I.も $\Delta 18.2$  と前期比 27.3 ポイント低下した。

資金繰り判断 D.I.は 9.1 と、前期比 9.1 ポイント上昇した。人手過不足判断 D.I.は $\Delta 18.2$  と、前期比 9.1 ポイント改善し、人手不足感が弱まった。

来期の予想業況判断 D.I.は $\Delta 9.1$  と、今期実績比 9.1 ポイントの改善を見込んでいる。

## 小売業

業況判断D.I.(小売業)



### ～小売業の景況感は横ばい～

今期の業況判断 D.I.は $\Delta 35.3$  と前期比横ばいとなった。

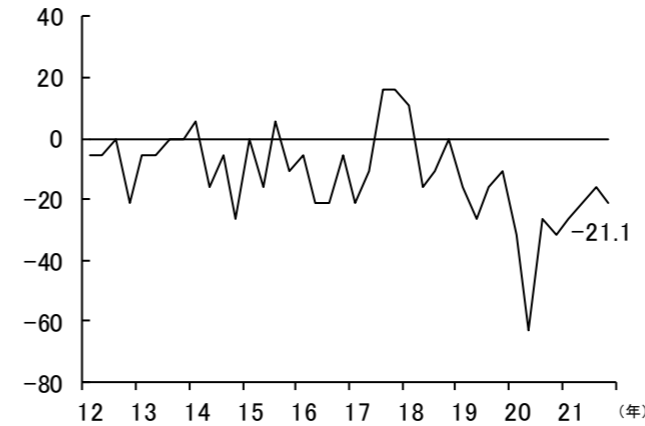
前年同期比売上額判断 D.I.は $\Delta 5.9$  と前期比 11.7 ポイント改善した。同収益判断 D.I.は $\Delta 35.3$  と前期比 11.8 ポイント低下した。

資金繰り判断 D.I.は $\Delta 35.3$  と、前期比 11.8 ポイント低下した。人手過不足判断 D.I.は $\Delta 5.9$  と前期比 17.7 ポイント低下し、人手不足感が強まった。

来期の予想業況判断 D.I.は $\Delta 47.1$  と、今期実績比 11.8 ポイントの低下を見込んでいる。

## サービス業

業況判断D.I.(サービス業)



### ～サービス業の景況感は低下～

今期の業況判断 D.I.は $\Delta 21.1$  と、前期比 5.3 ポイント低下した。

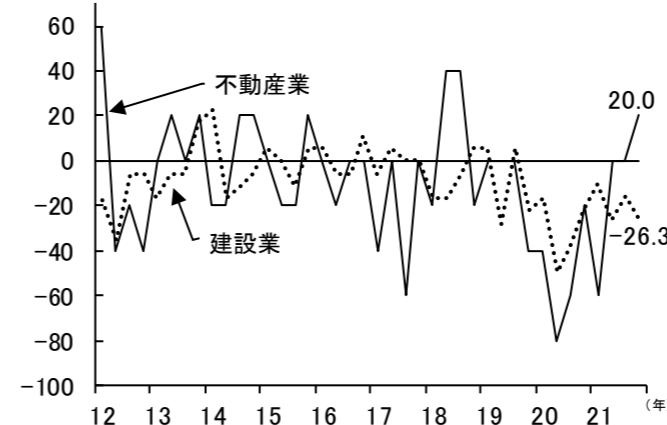
前年同期比売上額判断 D.I.は $\Delta 26.3$  と前期比 31.6 ポイント低下した。同収益判断 D.I.も $\Delta 26.3$  と前期比 31.6 ポイント低下した。

資金繰り判断 D.I.は $\Delta 10.5$  と前期比 10.5 ポイント低下した。人手過不足判断 D.I.は $\Delta 26.3$  と前期比 10.5 ポイント低下し、人手不足感が強まった。残業時間判断 D.I.は $\Delta 10.5$  と、前期比 5.3 ポイント改善した。

来期の予想業況判断 D.I.は $\Delta 15.8$  と、今期実績比 5.3 ポイントの改善を見込んでいる。

## 建設業、不動産業

業況判断D.I.(建設・不動産業)



### ～建設業の景況感は低下～

今期の建設業の業況判断 D.I.は $\Delta 26.3$  と前期比 10.5 ポイント低下した。前年同期比売上額判断 D.I.は $\Delta 57.9$  と前期比 47.4 ポイント低下した。同収益判断 D.I.は $\Delta 63.2$  と前期比 47.4 ポイント低下した。受注残判断 D.I.は $\Delta 10.5$  と、前期比横ばいとなった。

資金繰り判断 D.I.は $\Delta 21.1$  と、前期比 21.1 ポイント低下した。人手過不足判断 D.I.は $\Delta 26.3$  と、前期比 10.5 ポイント改善し人手不足感が弱まった。来期の予想業況判断 D.I.は $\Delta 31.6$  と、今期実績比 5.3 ポイントの低下を見込んでいる。

### ～不動産業の景況感は上昇～

不動産業については、調査対象先の少なさを考慮する必要があるが、今期の業況判断 D.I.は 20.0 と前期比 20.0 ポイント上昇した。前年同期比売上額判断 D.I.は $\Delta 40.0$  と前期比 60.0 ポイント上昇した。同収益判断 D.I.は 20.0 と前期比 40.0 ポイント上昇した。資金繰り判断 D.I.は $\Delta 20.0$  と前期比 20.0 ポイント低下した。在庫過不足判断 D.I.は $\Delta 40.0$  と前期比 40.0 ポイント低下した。来期の予想業況判断 D.I.は $\Delta 20.0$  と、今期実績比 40.0 ポイントの低下を見込んでいる。

## 調査員のコメント

**製造業**：業界全体で仕入値が高騰しており、利幅の縮小が懸念される。生産性向上等、利益確保に向けた体制の見直しを実施する。

**卸売業**：売上高は増加傾向にあるが、利益率は減少。設備更新、人材確保等課題は多い。

**小売業**：原材料高騰をチャンスと捉えて生産性向上に取り組んでいる。価格転嫁への対応も出ている。

**サービス業**：テイクアウト需要の高まりからコロナ以前より売上高は増加するも、今後の見通しは不透明。人材不足は常態化しており、時給を引き上げて募集するも人材確保は難航。

**建設業**：材料費価格の高騰が倍近くになっており、それに伴う売上減少を危惧している。

**不動産業**：仕入れエリアを大阪・東京方面にも広げ、回転の良い物件に注力している状況。